

今回は小学校での勤務と児童英語講師の経験をいかして、現在は「外国語活動支援員」としてより良いTT(チームティーチング)の授業を目指し、JTEとしての立場を忘れず、担任の先生のサポートを第一に心掛け、真摯に活動されている加納さんの実践報告です。

SHINE 通信

2015年4月号



加納清美さん

J-SHINE小学校英語上級資格者
鳥取県米子市 外国語活動支援員

■J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ、 小学校英語との関わり

大学卒業後、4年間小学校に勤めておりました。ちょうどその頃、1992年に公立の小学校で英語の授業が始まるニュースを耳にしました。次の年、学校現場を離れることになり思い悩む中、児童英語教師の仕事を知り、「いつかは小学校で英語を教えられたら…」との思いで、鳥根県松江市の児童英会話スクールで新たな一歩をスタートしました。その後、家庭に入り自宅で英語教室を開講しつつ、2004年から時々小学校へも非常勤講師で勤務しておりました。ただこれは英語に関わる講師だったわけではありません。小学校への英語導入には慎重な市の体勢が伺えました。それでも夢は捨てきれず、学会や研修会・情報誌などから小学校英語の動向を知りながら、その時を待っておりました。通信教育であるアルクの児童英語教師養成コースでは学んでおりましたので、J-SHINEの資格を取得したのもこの頃です。

それから3年が過ぎ、2005年に非常勤講師で勤務した学校の校長先生から、「今年から英語を始めるので、英語活動の特別非常勤講師で来てもらえないか？」と依頼がありました。当時はまだ必修化になる前で、「英語ノート」も配布されておらず、完全にお任せの状態でしたが、英語で小学校の教壇に立てることがとにかく嬉しく、夢が叶ったような気がしていました。

その後、関わる学校も3校に増え、自宅の英語教室も辞め、小学校英語に専念できるようにしましたが、必修化を前に【担任主導】での外国語活動の方向性に、また、様々な研究会等に参加する中で自分の立場に葛藤する日々が続きました。「ずっと温めてきてやっと英語ができるようになったのになぜ？英語活動をやりたくない先生があんなに多いのにどうして？そんな英語活動ならやらない方がいい。」そんなことまで思っていました。

外部人材に関わることへの批判もあり、「それなら小学校に勤めて、その中で英語活動に携われればよいのではないかな？」とも考え、3か月ほど小学校英語活動の場を離れ、米子市外の小学校に毎日勤めたことがあります。そこで実感したのは、小学校に勤めるということ、必ずしも英語活動に携われるわけではないということ、英語を通してからのこそ、小学校教育の中に自分自身の存在意義があるということでした。

2010年春、必修化になる前年、これまでの「英語活動特別非常勤講師」が「外国語活動支援員」に変わり、「外国語活動支援員」としてよりよいTT(チームティーチング)授業を目指し勉強していこうと心に決めました。関わるひとつの学校が拠点校で外国語活動を研究することになり、先生方と一緒に授業を創り上げていく中で、なぜ外国語活動は担任の先生が中心なのか、外国語活動の目的は何なのか、はじめて理解することができ、自分自身の意識も大きく変わりました。関わる学校も5校に増え、時間数その他J-SHINEへの申請条件も満たしていたので上級指導者資格を取得しました。小学校現場で日本人支援者として責任を持ってプロとしての仕事ができるか？それが上級指導者には問われているように思います。

■現在の活動状況・授業での関わり方・ 心がけていること

現在5校25クラスで、1学級年間22時間(※授業・打ち合わせ等含む)支援しています。外部人材の存在がかえって先生方の指導力向上の機会を奪っているとも言われますが、「楽」になることと「安心」して授業ができることは違うと思ひ、担任の先生を「補佐」する立場として、準備の負担軽減や安心して授業に臨めるための日本人ならではのサポートをするため、次のことを心掛けています。

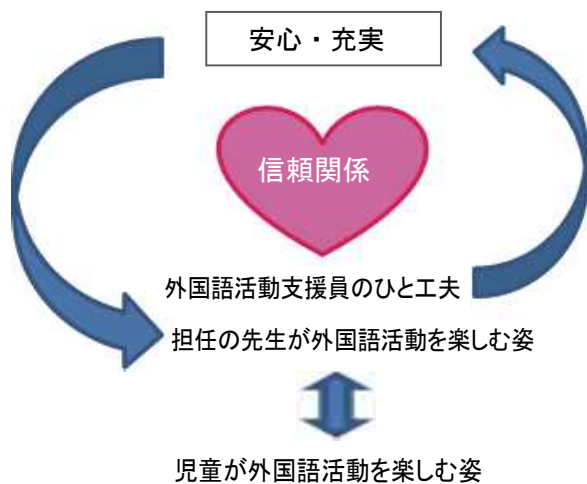
【計画段階において】

- ▶ 学習指導要領の趣旨をしっかりと理解するように努める。(研修会等への参加・書籍等での勉強)
- ▶ それぞれの学校の方針・外国語活動の指導計画に基づき、具体的に何が求められているか把握し、学校の特色・行事や他教科での学習内容を知るように努める。(学校に合わせたネタ探し)
- ▶ それぞれの学校の実態や指導体制に応じて、必要とされることを必要とされる形で提案していく。求められていないことはやり過ぎない。(各学校に合わせた活動プランの提案)(打ち合わせへの柔軟性を持った対応)

【授業において】

- ≫ 担任の先生が児童と一緒に授業を作っていくことに協力し、活動を「支援」する。
- ≫ 担任の先生の外国語活動経験・考え方等により関わり方を調整するが、TT（チームティーチング）のよさを活かせるようにする。（担任の先生との連携・信頼関係の構築）
- ≫ 担任の先生が児童の前で安心して自然に英語を使う場面を創る。
- ≫ 英語を多く使い耳にする英語を増やし、英語の雰囲気づくりを心掛け、児童に届く英語を自然に使う努力をする。
- ≫ 児童にとっては「日本人で英語を使う人」と意識し、質の高い「音」が出せるよう努力する。
- ≫ 日本人としての安心感を持たせる。（英語への責任・専門性の向上）

■ 連携のための工夫



連携していくためには、「信頼関係」をベースに外国語活動支援員が「ひと工夫」することで、担任の先生が安心して指導にあたられ、外国語活動が充実し、担任の先生が外国語活動を楽しまれる姿が、児童が外国語活動を楽しむ姿につながると思います。

どれだけ外国語活動支援員が「ひと工夫」していくかが大切だと思います。調整していく力です。米子市ではALT（※業務委託）が配置されているため、方法を間違えると、「この日はALTが来る」「この日は支援員…」と、授業が1時間の細切れになってしまいます。自分の時間だけ「授業をしにいく」のではなく、外国語活動全体の支援が求められると思います。

また、授業の様子や振り返りを記録に残し、次の授業に活かしたり、2年間の最後に外国語活動の活動内容を作成したりするのも役立ちます。中学校での学習に意欲を持ってむかえるように、2年間の外国語活動を見通しを持って考えています。

以前は小学校で英語を教えられることが嬉しかったのですが、今は担任の先生が子どもたちと温かい関係の中で授業を創り、その場にいられることが嬉しく、外国語活動を通してのすべての出会いが財産になっています。

■ 今後の展望、課題、目標

これまで様々な場でJTEの存在意義を発信してきましたが、なかなか届かないのが実状です。決して簡単にできる仕事ではないと思うのですが、ALTとの待遇の差が歴然としていたり、同じJTEでも自治体によって大きな違いがあったりします。仕事して成り立つところもあれば、本業があることが前提で考えられているところもあります。英語教育改革の中での学校における指導体制の充実として、現職教員の研修や免許法認定講習等での教員養成が急がれていますが、小学校英語特別免許状の創設など、これまで現場で奮闘してきた支援者の努力が報われ、安定した雇用制度の充実につながることを願っています。

今は外国語活動の充実に向けて、担任の先生に求められていることに、愛を持って支援し続けていくことですが、自分自身足りないところ、まだまだ学ばなければならないことがたくさんあるを感じているので、新たな英語教育改革に備えて、自己研鑽を続けていきたいと思っています。

* J-SHINE 通信 Web ページ

この2015年4月号をはじめ、過去に発行したJ-SHINE通信はすべてJ-SHINEのWebサイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

<http://www.j-shine.org/tsuushin.php>

